

19年度 第6回子育て・環境・魅力づくり部会

□開催日時 平成19年12月17日(月) 午後6時30～8時30分

□会場 幸区役所プレハブ会議室

□参加委員

専門部会B委員：今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小保方健次、小島春男、
庄司佳子、根本健

事務局(総務企画課)：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員

□議題

1. 「地域でのごみ減量化・リサイクル」について
2. (仮称)さいわい区民フォーラム実施内容について
3. その他

1. 「地域でのごみ減量化・リサイクル」について

(今井部会長)

本日の部会の流れだが、2月の全体会で提案できるように、今回と1月開催予定の専門部会でまとめる。残りの時間で(仮称)さいわい区民フォーラムの御意見をいただきたい。

それでは、松世副部会長より前回までの検討事項を説明願いたい。

(松世副部会長)

地域でのごみ減量化、リサイクルについて前回の確認であるが、はじめに1. 課題としては、依然として家庭ごみの排出量は高い水準にある。資源化が目標であるが、市の政策どおりには進んでいない。

次に、2. 検討の方向性としては、ごみの減量、再資源化を進める。地域での取り組みを広げる。取り組みを広げるためには、3Rを理解してもらう。取り組みの1、ごみを減らす取り組みとして、レジ袋ではなくマイバッグを使用する。取り組みの2として、出前模擬講座などを開催して地域で3Rを知ってもらう。取り組み3、地域での資源集団回収を広げる。

次に、3. 主な意見として、レジ袋でなくマイバッグを使う。マイバッグの利用推進については、商店街などと一緒にマイバッグを奨励する取り組みを行うことを検討していきたい。全体会の意見としては、市民と行政と企業と協定を結ばないとなかなか進めない。エコふろしきをセットで持ち歩けばよいなどの意見が出された。出前ごみ講座などを開催して地域で3Rの取り組みを知ってもらおうについては、専門部会の意見については、区民ひとりひとりがごみの減量、資源化の必要性を理解して協力してもらうことが必要、環境局が行っている講座を町内会で開催することを検討したい。全体会での意見としては、環境局から何回も出前講座をやってもらって分別の意識を徹底する必要がある。「愛のまちかわさき」をBGMとして、3Rを推進しましょう

ということを流したり、ステッカーを作って、ごみの集積所あたりに貼ったり、とにかく視覚などに訴えて広報するといったことが必要であるという意見が出された。最後に取り組み3の地域での資源集団回収を広げるについては、地域は多いが実施回数にばらつきがある。月1回だと出し忘れたときに普通ごみに出されてしまう実態がある。毎週身近な地域で資源集団回収が行われるよう検討していきたい。転入者などへのPRも必要。全体会議での意見としては、マンションや団地などについては一カ所に設けるが、地域では資源物を置く場所がないので、資源物を集める業者とどう調整するかが課題になる。普段ごみを出す場所で回収するという業者は、なかなかみつからない。町内会のどこかに一カ所に集めてほしいとか、集会所のどこかに置いてくれという業者が多い。業者が協力する体制をどうやってつくるか、なるべく身近なところに資源回収の場所を設けて毎週回収車が回ってこられる仕組みを考えたらいい。下河原地区では、毎週行われているので取り組みのモデル地区みたいな感じになっている。定着していくとかなりの量になるから、業者も積極的に運んでくれるはず。そうすると結果的に集める回数が増える。ミックスペーパーを行うとき、川崎生活環境事業所の職員に、分別方法について説明してもらい、よく分かった。全部の地域で実施したら各地区で説明してもらえるので、資源回収、分別回収がすごく進むのではないかと。また、幸区民として目標値を設定して取り組んだらどうか。ミックスペーパーの回収について、ビニール袋もレジ袋も混ぜて出してもらえるようにしてもらえないか。など、前回の区民会議までの確認である。

(今井部会長)

続いて事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

先ほどの説明があった取り組み1から3について行政の取り組みを説明する。マイバッグについては、川崎区では転入者にマイバッグを配布している。環境局の出前講座でマイバッグをもらったという意見があったが、東京都との共同キャンペーンで使ったもので、出前講座をすると必ずもらえるというわけではない。啓発活動として、在庫があったものを配布したということだった。1997年、元住吉のプレーメン通り商店街でエコバッグキャンペーンを実施したり、レジ袋の代わりにポイントをあげてエコバッグに変えられるというイベントを行った。出前講座については、ふれあい出前講座という名称で環境局でやっているものを資料して配付している。ごみの行方を知ってもらったり、ごみの分別をやってもらったり、あと、中身が見えるごみ収集車を用意して勉強していただくといったものである。続いて、18年度は99団体が資源集団回収の登録団体になっているが、回収場所については、生活環境事業所に問い合わせてもらっている。以上が行政の取り組みである。

(今井副部長)

以上の説明について何かあるか。全体会でいただいた主な意見ということで、市民、行政、企業が協定を結ばないとなかなか進まないのではないかという意見と、エコふろしきを持ち歩くようにすればよい、といった意見をいただいているが、部会ではどのように考えるか。

(根本委員)

市民と行政と企業の協定で、企業は大手スーパーのことだが、企業だけでは効果が薄いので、行政も絡み、市民も協力するということで、しっかり3者が絡まないとだめ。お店に来る市民は、そのまま受け取って帰ってしまう。私がみている範囲では、多くのものを買った場合にはマイバッグ1つでは入りきらない。多い人はレジ袋を4~5も持っている。ふろしきでも持っていれば全部入るが、お店がちょっと声かけしてくれないと浸透しないだろう。このため、企業の協力が必要となる。

あと、これからレジ袋が有料となると、単価が5円と考えると、3円が原価、2円が環境に還元するための費用として使わないといけない。それを区として出すのか、みなさん(全体会)で意見を出してもらって提案していかないといけないと思う。それと3Rという形で出しているが、区でやる場合は市と同じで良いかどうか。知識はあっても、実際にやるとなると、なかなかできないと思う。そのためには、実演してみたり、講座を開催したり、方法を教えないといけない。幸区としては、リフューズ(ごみになるものは絶対に買わない)、リペア(修理して使う)を加えて“5R”で循環型生活を徹底したい。ということで、5Rを提案したい。

(松世副部長)

マルエツでは、レジ袋を使わない人はスタンプを押してもらって還元している。たくさん買った人には箱(段ボール)が用意されており、自由に使うことができる。段ボールだと燃えるので良いと思う。

(根本委員)

段ボールでもいいのだが、レジ袋に入れて段ボールに入れるのでは意味がない。レジ袋を使えないようにしないとだめである。

(庄司委員)

ごみとなるものを買わないというところから始めるのが必要だと思う。幸区民が何をやっていいのかであるが、はじめから難しいことをやると定着しない。だから、私はマイバッグに着目した。マイバッグならば誰でもできると思う。マイバッグなら言いやすいし、使いやすいし、いいのではないか。区民会議でも商店街と一緒に取り組んでいかないといけない。実は7~8年前にマイバッグフォーラムというのが静岡県で開催され、行政や地域の商店街などまちぐるみで一緒になって取り組んでいた。やはり、みんなが一緒になって取り組まないと実現しない。あと、おもしろいなと思ったのが、身近な商店で共通のポイントカードがあって、どこのお店でも使え

て、ポイントが貯まると区で主催するコンサートに行くことができるとか、そういったような参加できるきっかけづくりのようなものが良いと思う。大切なのは、ものを捨てないということなので、そのようなことを通じて伝えていったらどうかと思う。

(小保方委員)

考えてみると、大型店舗が出てきた影響でゴミが多くなった気がする。シャッター通りとか問題になっているが。昔は出前とか、配達とか、当然ゴミがない。ゴミを少なくするためには、ゴミの反対運動というの意味が違つかもしれないが、大型店舗でたくさん買い物をしていくからゴミが出る。地元の商店街を大事にしていくということは、出前できるようにしていくことが大事だと思う。大型店の問題をまずみなさんに考えてほしい。それから、みんな車で買い物に行くから買い過ぎてしまうわけである。駐車場をなくすとかすると、荷物を多く持っていかないのではないか。または、難しいだろうが、カートを貸し出すとか、まちのどこかに使ったカートを置いておくと大型店の人が取りに来るとか。要するに、買い過ぎるからゴミが出る。大型店も事業ゴミを有料で出しているのだから、ゴミを出さない工夫が必要。ゴミを出さないためには、まとめ買いをしないということが大切。

(今井部会長)

大きな話で少しそれてしまうかもしれないけど、そういうことも大事だと思う。昔の魚屋でも新聞紙でくるんだり、豆腐屋でもざるで買っていた。そうすればゴミは出ない。ご用聞きとか大事だった。真剣に幸区で取り組むのであれば、モデルとして、どこかの商店街でやってみたらどうか。別の部会をつくってやっていったらどうか。

(小保方委員)

孫と買い物にいくと、店員が嫌な顔をする。子どもがレジ袋なしで買い物すると、万引きと間違われる。子どもがレジ袋なしで買い物するのは難しい。

(庄司委員)

昔はマイバッグで買い物すると万引きと間違えられて、嫌がられた時代があった。最近は少しずつマイバッグが浸透している。しかし、商品を店のテーブルを貼っただけで持っていると言われたいと言われるのも事実。商店の店員さんの意識を変えていく必要がある。

(小島委員)

大きいバックを持って入っていくと、店員さんから万引きじゃないかと警戒される。間違える店員さんが多いので、マイバッグを持たない人も多い。

(小保方委員)

お酒も今はパックである。それも最終的にはごみになる。昔は瓶で、なくなると酒屋に持っていたものだ。基本的には余分なものを買わないということだと思う。

(庄司委員)

ブレーメン通りで1店1エコ運動というのをやっているのだが、その中に豆腐屋があって、容器を持って買い物してくれた人には、サービスがある。1割くらいの方がリピーターで参加する。無理しないような取り組み、いろいろなところと繋がってできると良いと思う。そういうのが商店街の活性化に繋がると思う。

(今井部会長)

そういう取り組みが大事だというのは、みんな一致していると思う。どこかの商店街でごみを減らしてみようといった取り組みをモデル的にやってみたらどうか。マイバッグうんぬんではなく、商店街活性化を含めた取り組みを行ったらどうか。

(庄司委員)

モデル的にやれるといい。

(今井部会長)

ただ、そうになると商業観光課とかが関係してくると思う。

(小保方委員)

商店街に大きな店舗ができると、小さな商店が軒並みつぶれる。だから、大型店は駐車場をつくらなければいい。

(庄司委員)

川崎市では、レジ袋を有料化した店舗を応援しようという動きがある。商店街とどうやって連携していくかということが、これからの問題になってくると思う。

(小保方委員)

大規模店舗の駐車場を何とかしないといけない。うちの前の通りは大規模店の駐車場ができてしまったために、人の流れが変わってしまった。

路上にごみを捨てていく人とかにどう注意したらよいか。また、ごみ集積所をどうするか、ごみを減らすことばかりでなく、そのようなことも専門部会で話し合うべきだと思う。そうしないと、いつも掃除する人が同じとか、そのへんも含めて話してほしい。

(今井部会長)

大きなテーマとして、モデル的に環境問題について取り組んでみようということを決め、取り組み1、取り組み2、取り組み3をやってみるといのはどうか。塚越の商店街でも良いが、やってみたいという商店街を探す。今、買い物難民という言葉があり、シャッター商店街が増えてしまったために、高齢者が買い物できないという現状がある。夢見ヶ崎でそういう問題があるということである。幸区内どこかやってみたらどうか。

(小保方委員)

北加瀬の商店街のところに結構小さいお店が並んでいる。

(今井部会長)

高齢者や障害者に優しい商店街とは、車がシャットアウトされていて、一休みできる場所があり、アーケードがあって雨天時に傘をささずに移動ができるようになっているところ。マイバッグの話とか、ごみ講座の話とか、集団資源回収の話とか、そういうところでもできるかもしれない。市民と企業と行政の協定というの、協力していきましょうという形で進める。あと、エコふろしきのようなものを持っていきましょうといったことと提案する。若い人はふろしきを知らないの、商店街でふろしき講座をやるとか。あと出前講座であるが、それは幸区内でいっぱい開催していきましょうというので良いと思う。愛のまちかわさきをBGMにして「3Rを推進しましょう」と放送したり、ステッカーをつくったりしましょうというのは、部会で推進しましょうと決めてしまっているのか。

(事務局)

「決める」ことはできないが、ごみ収集の時に3RをPRするように働きかけること、あと、ステッカーなどをごみ集積所に貼ってPRするという働きかけることは可能では。要するに目で見える形で訴えていこうということを提案していくことはできる。

(今井部会長)

集団資源回収については、どこでやっているかマップをつくるか。

(松世副部会長)

集団資源回収の日程も必要。そういう業者がなかなか見つからないという意見があった。あと、身近な場所に回収場所があるとよいと思う。

(庄司委員)

小学校は週1で実施している。

(小保方委員)

幸区では、横浜市都筑区の業者がまわっているらしい。集団資源回収がまわっていない地域には、そこを紹介したらどうか。PTAは、置き場所を設定して集めに来るらしいが、子ども会の場合は、集めに行って一カ所に置いておかないといけないらしい。それが大変である。子ども会は1ヶ月に1回。毎週やると思ったら大変である。

(庄司委員)

新しくできたマンションとかに周知できないのではないかな。

(小保方委員)

新しいマンションはごみ集積所があるけど、戸建て住宅を開発した地域は、その中でごみ集積所をつくっていない。そのため周辺のごみ集積所に捨てるようになり、ごみがいっぱいになっていしまう。

(小島委員)

一番困るのは、雨の時に出してしまう人。あと、前の日の夜から出してしまう人もいれば、収集車が行ってしまってから出す人もいる。

(小保方委員)

ごみ出しのモラル啓発のステッカーを作ってほしい。マナー違反に罰則みたいのはないのかな。

(庄司委員)

焦点が絞りきれなくなってきたがどうするか。

(小島委員)

全部やったらどうか。

(今井部会長)

とりあえずできることからということで、取り組み1で転入者向けのキャンペーンということでマイバッグの配布はどうか。取り組み2の出前講座であるが、幸区で積極的にやろうというのは良いと思う。取り組み3の集団資源回収を増やすということについて、何か良い提案はないか。集団資源回収の箇所をマップに落とすというのはどうか。

(事務局)

環境局では、何曜日にどこで集団資源回収をやっているかという情報を持っている。環境局が了承すれば情報を出せる。

(小保方委員)

ついでに粗大ごみとか、街中に捨てたときに罰則があるのかどうか調べてほしい。

(今井部会長)

取り組み3については、幸区として資源集団回収の開催回数を増やしていきましようということを提案する。モデル的にやってくれる商店街を探して取り組んでみる。商店街の取り組みもやってみたい。昔からの良い商店街が消えていくのが気になっていた。

(小島委員)

参考になる商店街を事例として紹介したらどうか。

(庄司委員)

ブレーメン通りとか、多摩区の登戸ゆうえん隊とかある。モデル的取組みのパターンをいくつか考えてみてはどうか。モデル的にやった方が取組みが見えやすい。

(今井部会長)

幸区には幸区の特徴があるので、あまり他の事例を参考にしすぎるのはよくない。大型店と商店街が協力してできそうなところがよい。

(事務局)

いろいろ出されたが、商店街については幸区単独で取組むのは難しいと思う。経済局と連携しないとイケない。先ほど出されたマイバッグのキャンペーンみたいな取組みは区でもできる。また、商店街と一緒にマイバッグを奨励するキャンペーンもできると思う。あと、資源集団回収の情報をいただいてマップをつくることも可能だと思う。ごみの出前講座も環境局から協力をもらってできると思う。あとごみの集積所はどうするんだといった話は、環境局の管轄になるが。

(庄司委員)

マイバッグはもらえないのか、ということを言われたら、ごみ出前講座に出たらもらえるような仕組みにしたら良いと思う。

(今井部会長)

やりたいことはまだまだあるが、できることから取り組んでいきたいと思う。

2. (仮称)さいわい区民フォーラム実施内容について

(今井部会長)

続いて、(仮称)さいわい区民フォーラム実施内容について、事務局より説明いただきたい。

(事務局)

もう一つの資料を見ていただきたいのだが、3月15日(土)の午前中に開催を考えている。併せて託児サービスやパネル展示も行いたいと思っている。内容については、区民会議の2年間の取組みや提言内容を報告するとともに、地域課題解決に向けて、より一層の区民の参加と協働を呼びかけるとしている。企画運営部会で具体的な内容を検討するが、その前に専門部会へ説明し、御意見をいただきたいと思っている。

検討項目の1のアトラクションであるが、ミニコンサートなどを考えている。役割分担としては、コーディネータが委員長または副委員長、パネリストは区民会議委員5名程度と区長、提言の報告をパネリストのうち2名程度。司会者は、かわさきFMのアナウンサーを考えている。

それと、その他のところであるが、かわさきFMのスポット広報をやっているので、宣伝してもらおう。また、実施後にかわさきFMでの特番放送を考えている。

(今井部会長)

今の説明に対し、何か御意見はないか。どのような方を対象にするのか。区民会議の委員が所属している団体の人たちに出てもらうか、それとも、もっとすそ野を広げたものにするのか。個人的には、最近幸区に転入してきた若い世代の人たちに参加してもらいたいと思っている。そのために託児を用意してもらった。

(庄司委員)

私もいろいろな人来てもらいたい。団体の人には、何人くらい来てほしいと決めてお願いしたい。広報はどうするのか。

(事務局)

幸区版やポスターなどでやっていく。昨年、防災フェアをやったが、100名近くの参加があった。

(今井部会長)

そのときは新住民の方の参加はあったか。

(事務局)

どちらかという関係する団体の方の理解を深めてもらうことが目的だった。幸区の場合は、幸区の主要な団体は区民会議に参加されているので、浸透していると思うが、他の団体の人にも参加してもらい、理解してもらうことが目的だった。

(根本委員)

提言内容をどうするか。だいぶ変わってきているような気がするが。全部を発表するわけではないのか。

(事務局)

基本的には、これまでどんなことをやってきたかを報告するものだと思っている。その中でどれかを重点的に討議する必要があるれば、そのような形も検討してみたい。

(今井部会長)

パネリストが出て、報告して、コンサートをするのはちょっと安易かなと思う。たとえば、ひとり一言みないなことを短冊みたいなものを書いてもらって、幸区はこんな区を目指すといったことをやる。良いものには商品を出すとかやってみてもいいのでは。

(庄司委員)

テーマ別にグループをつくって、参加者も自由に話せるようなものにしたい。

(今井部会長)

参加者がただ座っているのではなく、参加して意見が言えるようなものが良い。

(庄司委員)

今までやってきたテーマで自由に話してもらってはどうか。そうすれば新しい意見を聞ける。そういったような場が必要。

(今井部会長)

参加者に意見を書いてもらって出してもらって発表してもらい、いわゆるワークショップ形式でやりたい。

(松世副部会長)

パネルディスカッションを聞いて、その後にグループ毎に意見を出してもらおうようなものが良い。

(庄司委員)

なかなか発言しにくいと思うので、ワークショップ形式でやった方がよいと思う。

(今井部会長)

A部会、B部会ごとにグループつくって意見交換するとか。ただ、話を聞きに来るのだけでなく意見を出してもらいたい。ただ、100人来たら大変である。あと、あらかじめ意見を書いてもらい、パネリストに答えてもらう方法もある。いずれにしろ、意見を出せるような形にしたい。

(庄司委員)

なにかしら参加型になるようにしてほしい。

(今井部会長)

アトラクションも何かあるか。参加型で。このときにマイバッグを出すとか。間に合わないかな。何かもらえると良いのだが。

(事務局)

環境局などに啓発で配れるものが、何かあるば。

(今井部会長)

落語かコンサートか、あと参加型でやってほしい。

3. その他

(事務局)

各区民会議への御案内資料を見ていただきたい。3月に自治創造・かわさきフォーラムで区民会議企画というものを開催することが考えられている。そこへの協力願いが事務局の総合企画局から来ている。自治推進委員会とは、自治基本条例に基づいて設置されたもので、区民会議など川崎市における自治の運営に関する基本原則について調査するもの。これまでの取り組みを総括するものとしてフォーラムを開催したいということ。自治創造・かわさきフォーラムの中の分科会として開催したいということである。区民会議企画について準備会を開催したいので、趣旨に賛同していただける方は参加してほしいということである。1回目の準備会を1月11日(水)18時30分から中原区役所で開催する。今回は御案内させていただきだけで、必ず選出しなくてはいけないということではない。ただ、準備会に出なくても区民会議企画には行ってほしい。

(今井部会長)

関心のある方は申し入れてください。

今日は以上で終了します。